

企業魅力向上に向けTOPセミナー始動

小林講師 人本経営の基礎説く

江津市企業魅力向上事業の一環として行われる「ごうつ企業魅力向上TOPセミナー」がスタート。今年度第1回が10月28日、パレットごうつで行われ、人本経営の提唱者である小林秀司講師が、「業績軸」から「幸せ軸」へ、利益追求型から社員第一主義の経営への転換を訴えました。

この日、セミナーに参加したのは今年度参加を予定している15社のうち12社から21人。さらに、市外の企業などからオブザーバーとして10人が出席しました。

小林講師は冒頭で、「人本経営に取り組んでいる会社は社内結婚率が高く、子だくさんの率も高い」と切り出し、「子どもの晴れ姿を見て、次の日に出勤してくる従業員はとてつもないモチベーションで仕事に励んでくれる」と人本経営の有益性を強調。戦後70年を迎えた日本においては、資本主義社会の終焉を迎え、業績軸から幸せ軸へパラダイムシフトが起き、新たなサイクルに入りつつあるとしました。

その上で、これからの時代に必要な「いい会社」の条件として、▼そこで働く社員が自主自立的に社会の役に立つ仕事をしている▼取引先、外注先など仕事で関連するパートナーに益をもたらしている▼お客様から、なくてはならない会社と選ばれ続けている▼障がい者雇用など地域社会の課題解決に貢献している▼結果として株主に高配



社員とその家族を最優先する「幸せ軸の人本主義」の重要性を説く小林講師

当を実現できる高収益の業績を実現している一の5点を挙げた小林講師。社員とその家族を、最優先するステークホルダーと位置づけ、次いで顧客、地域社会、株主と順位付けることが「幸せ軸の人本主義」であり、それまでの世代と価値観の異なる「平成世代」とは親和性が高いことから、今後人手不足に陥りにくくなると説明しました。

小林講師はこれまでに約550回の企業視察を重ねており、セミナーでは

その中から伊那食品工業を紹介しました。長野県伊那市にあり、寒天のトップメーカーとして知られる伊那食品工業は、斜陽産業ともいえる業界にあって、48年連続増収増益を達成した人本経営成功企業の代表格。「無理な成長は追わない」「敵をつくらない」「成長の種まきを怠らない」という経営方針は、現在のトヨタにも大きく影響を与えています。伊那食品工業を「永遠にベンチマークしたい会社」と称した

小林講師は、社会保険労務士としての自身の経験も踏まえた上で、「既存顧客を失うことを恐れず、仕事の意味をとらえ直し、一步一步継続することが重要。その仕事を受けて従業員や自

分が幸せかどうかを考えないといけない」と話しました。

参加者は講演後、「いい会社（元気な会社度）簡易診断」に取り組み、それぞれの会社の状態をチェック。質疑

応答の時間には、「人を大切にしている経営をしたいが、そうはいかない現実もある。どうしたらいいのか」「仮に日本全ての企業が人本経営に成功したとして、その後どう展開があるのか」といった質問が挙がり、小林講師はそれぞれ、「（人本経営に転換して）初めころは確かに仕事は減ったが、嫌な仕事もなくなり、空いた時間で新しい仕事を考えることができた」「日本の企業が全て成功すれば、その後は人本経営を輸出する時代になる」などと答えていました。



講演を聞く参加者

25年後、生産年齢人口は35%減に

本市 釜瀬顧問が警鐘

今年度第1回ごうつ企業魅力向上TOPセミナーの開催にあたり、本市顧問の釜瀬隆司が事前レクチャーを行い、25年後の2040年には、本市における生産年齢人口が35%減少する予測などを紹介。今後の雇用環境に警鐘を鳴らしました。

釜瀬顧問は、全国的に人口減少が進む中、現在の江津市の人口推移、社会増減の動向などを紹介した上で、国立社会保障人口問題研究所による2040年の推計人口が1万5600

人、昨年策定した「江津市版総合戦略」において定めた同年の目標人口が1万7300人であることを説明。目標人口を達成した場合でも、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口は現在の約1万2500人から約4500人、率にして35%も減少する見込みを示しました。

市内の高校等卒業者の市内就職率が20%程度にとどまっていることから、残る8割に働きかけることの重要性についても触れた釜瀬顧問は、これから



必要な就業者の確保対策として▼高校等新卒者の地元就職者の確保▼U・Iターン者の確保▼離職者数の抑制・離職率の低減—を挙げ、そのためには情報発信と企業の魅力化が不可欠であると話しました。

「企業が変われば、江津は変わる」

横田産業人材育成コーディネーター

セミナー開催の仕掛け人である横田学・産業人材育成コーディネーターは、「企業が変われば、江津は変わる」と



セミナーの意義を説明。「釜瀬顧問が話したとおり、人が減っていくのは全国的な傾向であり、止められない。その中でどう生き残っていくか、それをセミナーでつかんでほしい」と訴えました。

横田コーディネーターが今回、こだわったのは、「経営者と採用（現場）担当者の2名以上が参加する」ことでした。経営側だけが触発されても現場

が動かない、現場が声を上げても経営者に響かない、そういう状況を変えるため、両者が同時に同じことを見聞きし、体感することが何より重要だと話しています。

第1回を終え、「自分の会社はまだまだだ、という気持ちで第2回以降に臨んでほしい」と参加者に伝えた横田コーディネーター。セミナーの成果に大きな期待をかけています。